

会 議 録

1 会議名

第6回柿崎区地域協議会

2 議題(公開・非公開の別)

(1) 報告事項(公開)

- ・ 温浴・宿泊施設の再配置に向けた柿崎マリンホテルハマナスの現況について
- ・ 地域活動支援事業の変更申請について

(2) 協議事項(公開)

- ・ 懇談会を通しての意見交換
- ・ 令和2年度視察研修について

(3) その他(公開)

3 開催日時

令和2年9月15日(火) 午後6時から午後7時25分まで

4 開催場所

柿崎コミュニティプラザ 3階 305～307 会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者(傍聴人を除く) 氏名(敬称略)

- ・ 委員：岩野秀樹委員、薄波清美委員、貝谷雅子委員、片桐充委員、小出祥世委員、小山慶委員、白井一夫委員、武田正教委員、箕輪明男委員、蓑輪和彦委員、吉井一寛委員、吉村正委員
- ・ 事務局：柿崎区総合事務所 市川重隆所長、柿村勇次長、保倉政博次長、滝澤陽一産業グループ長、武田勝博建設グループ長、平野真教育・文化グループ長、新保大志市民生活・福祉グループ市民生活班長、春日香織主任、板垣梨穂主事

8 発言の内容（要旨）

【柿村次長】

- ・地域協議会の開会を宣言。
- ・片桐宏樹委員、中村誠委員の欠席を報告。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により、会議の運営は会長が行う旨を説明。

【吉井会長】

- ・会長挨拶。
- ・会議録署名委員に小山慶委員を指名。
- ・報告事項の（1）温浴・宿泊施設の再配置に向けた柿崎マリンホテルハマナスの現況について、滝澤産業グループ長に説明を依頼。

【滝澤グループ長】

- ・柿崎マリンホテルハマナスの現況について説明。

【吉井会長】

報告事項について、何か質問はあるか。

（質問なし）

【吉井会長】

質問がないので、報告事項の（1）温浴・宿泊施設の再配置に向けた柿崎マリンホテルハマナスの現況については終了する。続いて（2）地域活動支援事業の変更申請について、事務局から説明願いたい。

【春日主任】

- ・地域活動支援事業の変更申請について説明。

【吉井会長】

変更について、再度採択は必要か。

【春日主任】

必要はない。採択後、補助金の交付決定がされている事業についての変更は、目的達成に影響がない限り、市が承認の決定をすることとなっている。今回、市

として内容を確認し、変更の承認を決定したという報告となる。

【吉井会長】

承知した。以前に柿崎区地域協議会でもナマラエンターテイメントの社長から講演に来てもらったことがある。10月の記念講演は、皆さんもぜひ参加して盛り上げてほしい。変更申請については終了する。

続いて協議事項に移る。(1) 懇談会を通しての意見交換ということで、懇談会の内容について意見をいただきたい。今月23日に懇談会委員会を行い、意見をまとめて、第7回の地域協議会で協議したいと思う。先ほどの懇談会では、委員の皆さんから発言してもらった時間がなかったので、この場で、自主的審議事項にあげるべき問題などについてお聞きしたい。まずは薄波委員にお願いしたい。

【薄波委員】

懇談会ができたことは、とても有意義だった。もっと早くこのような機会があればよかったという意見もあったが、ただ集まればよいわけではなく、そこで得たものを次につなげていく必要があり、責任の重大性を感じた。今回、空き家、久比岐高校の存続、柿崎病院、免許センター跡地の活用などの課題が出たが、少子高齢化、人口減少が根本にあると考えている。

私たち委員が任期期間中にできることを考えたが、今日参加された世代の方よりももっと下の中学生や高校生が、どういう条件であれば柿崎に住みたいと思うかを聞く機会を持つことが必要だと感じた。見ている視点が全く違うと思う。

最近、ズーム会議をする機会があったが、W i F i環境が整っている個室が柿崎にはなかった。同じように、若者がどこかに集まり、S N Sをしたり交流をしたりする場が柿崎にあるのかと思うと疑問に思う。

まずは、総合事務所に公共W i F iを導入してほしいと思う。また、子どもたちには公民館の部屋などを休憩や交流場所として開放することが必要ではないかと思う。

【吉井会長】

続いて片桐委員、よろしくお願ひしたい。

【片桐委員】

懇談会では様々な問題提起があり、有意義だった。今回は観光協会の副会長という立場で出席したが、今まで全く団体同士の横のつながりがなかったので、今

後は定期的に懇談する場を設けられたらよいと考える。

今、観光協会は財政的に厳しい状況にある。いつなくなってもおかしくはない。だからこそ、まちづくり振興会、商工会ともしっかりと連携をとっていかないといけない状況である。地域協議会で何ができるか分からないが、何回か団体同士の話し合いを進めていく中で、よい方向に進んでいくのではないかと考えている。

【吉井会長】

課題の中で、我々が議論した方がよいテーマはあったか。

【片桐委員】

空き家と久比岐高校の問題が気になった。久比岐高校については、以前に PTA 会長をしていたが、特徴がない高校で、進学校でもないし、就職も有利ではない。農業高校などの方が資格もたくさん取れるし、就職も有利だと思う。何か特徴のあるものを出していかなくてはいけないと思う。

【吉井会長】

続いて箕輪委員、よろしくお願ひしたい。

【箕輪委員】

久比岐高校について、生徒が少なく存続が厳しいという話があったが、薄波委員が言われたように若い方から話を聞く機会を持つのはよいと思う。

空き家について、三ツ屋浜地域では 1 件売りに出されていて、来年 3 月に新潟市に住んでいる方が入居する予定である。また、もう 1 件の空き家は、リフォームし、障害者のグループホームとして入居者を募集するとの情報がある。空き家については、不動産業者と連携していく必要があると感じた。

【吉井会長】

続いて吉村委員にお願ひしたい。

【吉村委員】

久比岐高校の女子学生の制服について、ズボンが嫌だという話があったが、地元の高校でもそういうことがあるのだということを再認識した。

我々が協議会の中で何ができるかについては、やはり人口減少がすべての根源であり、それをどう増やしていくかが課題となる。外国の方を連れてきたり、出生数を増やしたりいろいろあるが、何をもち魅力あるまちづくりを行っていくかが課題である。一時的に資金を投入したところで、それがよい方向につながる

こともあるが、継続しないこともある。よいアイデアがあればよいが、なかなか出てこないのもう少し考えたい。

【吉井会長】

続いて菘輪委員、よろしくお願ひしたい。

【菘輪委員】

地域協議会が取り上げていくテーマについて、まず、免許センターの跡地利用の件でアイデアがほしいという話があったので、検討してもよいのではないかと考える。

もう1つは、空き家対策についてである。根本は人口減少だと思うが、外から人を呼ぶ対策は必要だと感じた。空き家の情報発信について、工夫が足りないのではないかと話があった。以前、空き家対策協議会の委員をしていたことがあるが、全国の市町村で空き家に関する条例が制定され、妙高市では、空き家バンクを通して都会から移住された事例があると聞いている。上越市の空き家バンクがうまく運用されていないようであれば、発信の方法も含め、要望として出すのもよいと考える。地域協議会としても、発信の仕方について検討してもよいのではないかと。

また、薄波委員が話をされていた若い世代から意見を聞くこと、また、まちづくり振興会の中村事務局長が提案されたボランティア養成講座もよい考えだと思った。

【吉井会長】

続いて武田委員、よろしくお願ひしたい。

【武田委員】

柿崎病院や久比岐高校については、地域協議会としては関わるのが難しいと考えている。一番必要だと思ったのが、空き家の問題である。上越市全体となると難しいと思うので、柿崎地域で発信する仕組みをつくることできないかと思う。地域協議会は実施主体にはなれないので、その仕組みをつくりやすいような提案や協力ができたらよいと考える。

【吉井会長】

続いて小山委員、よろしくお願ひしたい。

【小山委員】

柿崎病院は、講話の通り、大きな病院のサテライト的な機能、一時医療としての機能を継続しながら、存続してほしいと感じた。

久比岐高校については、柿崎地域がどれだけ必要としているかを情報収集してもよいと思った。

免許センターの跡地利用については、懇談会や地域協議会などで検討すべきか協議が必要だが、何か魅力的な施設ができればよいと思う。

人口減少に伴う空き家対策については、町内会で情報収集をし、どの町内会にどれだけの空き家があるのかを皆で共有して、活用方法を検討していけたらよいと思う。

今後の柿崎区のあり方については、柿崎の若い方にどれだけ思いを持ってもらえるかが大事だと思う。それが形になれば、みんなで力を合わせて、よりよい地域にしていけるのかなと感じた。

【吉井会長】

続いて小出委員、よろしく願いしたい。

【小出委員】

ポイントとして、外から人を受け入れるという点が出た。閉鎖的な地域特性がある中で、生活習慣や価値観が違う方をいかに受け入れ、交流していくか。それが移住の数だけでなく、真の移住者の受け入れへの重要な点になると思う。

まちづくりのキーワードとして、よそ者と若者とバカ者を大事にしないと地域が発展しないといわれる。今後、こういった方たちをソフト面からも受け入れていかないといけないと思う。

講話会を聞いて感じたのは、空き家について、3,000万円は出せないが、300万円ならお試しで来られるかなという話があった。とはいえ、すぐにお金を出せるかということもあるので、まずはお試し移住で来てもらい、地域住民と交流をしながら、地域を知ってもらう機会をつくると、ただ家を提供するだけはない取組ができると感じた。

久比岐高校については、高校生のパンツスタイルをみて、どうして女子高生がこのようなスタイルをしているのかと思った。確認したら、冬の期間は義務化されていることが分かった。今の女子高生がそれを受け入れられるかといったら大変難しいと思う。制服で高校生は高校を選ぶ。そういった点からも、若者から意

見を聞くという機会は必要だと思う。

公共交通については、直江津に移設する免許センターには電車で行くことができるという話が出たが、高齢者は柿崎駅の階段の上り下りが支障になり、電車に乗れない状況がある。公共交通に関しては、若い方ではなく高齢者の意見を聞く機会が必要だと感じた。

【吉井会長】

続いて貝谷委員、よろしくお願ひしたい。

【貝谷委員】

柿崎に住んでいる方が、柿崎のよいところを発言できるかが問題。ある集まりで、水野から見る夕日がとてもきれいだと聞いたことがある。地元にいると、あたり前に思うこともあると思うので、まずは地域のよさを再認識する必要があると思う。

空き家対策については、留学制度をつくって、子どもたちを呼んで田舎の暮らしを体験してもらいたいと思う。

【吉井会長】

続いて、岩野委員は懇談会に欠席されたが、何かあればお願ひしたい。

【岩野委員】

空き家は柿崎区には何件あるのか。

【吉井会長】

行政側から各町内会に空き家が何件あるかという調査を行っており、数は出ている。ただ、空き家の定義が難しい。行政側が指定する空き家は、人が住めない家である。空き家の中でも、まだ住めるが、一時期家を離れている事例もある。こういったレベルの空き家については、行政としては把握していないと思う。

【柿村次長】

補足をする。市として把握している空き家は、あくまで防災対策ということで、家が倒れかかっていたり、屋根が吹き飛びそうだったりという危険度の高い空き家についてである。空き家を活用しようという趣旨とは違う。ただ、市でも、空き家バンクという制度はあるはずである。

【春日主任】

市のホームページで確認したところ、上越市の空き家バンクはある。空き家バ

ンクに登録を希望する所有者が申請をし、審査を経て、登録される仕組みになっている。

【吉井会長】

承知した。岩野委員、引き続き意見をお願いしたい。

【岩野委員】

近所に、夏や冬だけ帰ってくる家がある。同じように、別荘のような、お試し移住ができないかと思った。

柿崎病院については、とてもよいと思う。父が体調不良で柿崎病院に通院した際、すぐに紹介状を書いてもらって中央病院に行くことができた。

久比岐高校については、私の家が駅の近くにあるため、毎日生徒が家の前を通る。すばらしい挨拶をしてくれる子どもも何人かいる中で、久比岐高校への思いはあるが、今後どうしていったらよいか答えは出ない。

免許センターの跡地については、若い人が集まることのできる施設ができればよいと思う。

【吉井会長】

皆さんから意見を伺ったので、懇談会委員会で検討してもらいたい。今回、意見として出てこなかったが、公共交通のバスの問題については、柿崎区にとって非常に重要な事項ではないかと思う。また、前回の地域協議会の持ち越し案件として、保育園の問題がある。これも避けて通れないのではないかと考えている。この点も踏まえて、懇談会委員会でまとめていただきたい。以上で懇談会を通した意見交換を終了する。続いて、令和2年度視察研修について、事務局からお願いしたい。

【春日主任】

- ・令和2年度視察研修案について説明。

【吉井会長】

例年だと、10月下旬から11月に視察研修に行っている。まず視察研修を行うかどうかを決めたいがいかがか。

(行いたいとの声あり)

【吉井会長】

研修を行いたいとの声があった。視察研修で勉強するのは非常によい機会なの

で、行うこととしたい。場所については、事務局から例をあげてもらったところだが、最終処分場について、秋頃に再度担当課から地域協議会へ話があると聞いているがいかがか。

【春日主任】

県の検討委員会では、10月頃に委員会を開催し、調査対象地を5から10か所に絞り込むこととしている。その後、11月の地域協議会で再度説明がある予定となっている。

【吉井会長】

11月の地域協議会で説明があるとなると、我々はそれまでに勉強をしておく必要がある。私としては、ぜひエコパークいずもぎきを視察して、どのような経緯でそこに決まったのか、処分場のその後の活用方法などを聞いてみたいと思っている。皆さんいかがか。

(よいとの声あり)

【吉井会長】

エコパークいずもぎきの視察時間は1時間半となっている。移動は1時間ほどか。

【春日主任】

柿崎区から現地までは40数キロの距離で、所要時間は1時間半くらいと考えている。

【吉井会長】

デマンド交通のてまりんも行っているようだが、行政がやっているのか。

【春日主任】

出雲崎町がタクシー会社に委託して行っている。

【吉井会長】

デマンド交通について、行政から話を聞く機会をつくってほしい。移動を含め、約6時間の研修となるのでよろしくお願いいたします。

【春日主任】

確認したところ、エコパークいずもぎきの視察は、原則、火曜か木曜となっている。都合のよい曜日や日程などを教えてほしい。

【吉井会長】

10月13日か20日のどちらかで確認してほしい。

【春日主任】

承知した。

【吉井会長】

以上で、協議事項を終了する。その他に移る。

【柿村次長】

- ・新潟県原子力防災訓練の実施について説明。

【春日主任】

- ・まちづくり市民大学OB会主催の講座について説明。

【吉井会長】

講座の参加は自由だが、地域協議会委員になった方向けの講座は参加した方がよいと思う。

次回の第7回地域協議会は、10月20日火曜日に開催する。他になければこれで終了する。

【白井副会長】

- ・地域協議会の閉会を宣言。

(午後7時25分閉会)

9 問合せ先

柿崎区総合事務所総務・地域振興グループ

TEL : 025-536-6701 (直通)

E-mail : kakizaki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。